

福電協会報

第91号



一般社団法人 福岡電業協会
2021.1

福電協会報

第91号

◀ もくじ ▶

会長挨拶	西村 松次	1
祝 辞	国土交通省九州地方整備局 局長 村山 一弥	2
	福岡県知事 小川 洋	3
	福岡市長 高島宗一郎	4
福電協創立50周年記念行事		5
施設紹介		
	福岡空港(奈多地区)航空灯火施設の紹介	7
技術レポート		
	免震層及び狭いEPS内電気配線の バスタクト化	9
シリーズ職場訪問		
	株式会社電友社	13
シリーズ郷土	豊前市	16
写真コンクール(第40回)		18
横顔紹介と随筆		22
事業報告		
	「技術講習会」を実施	27
	「実技講習会」を開催	28
	福電協ゴルフ大会(92回)	29
委員会だより		
	総務委員会	30
	広報委員会	30
	技術委員会	30
	事業委員会	31
	企画運営委員会	31
協会組織		32
会員名簿		33
役員名簿		36

表紙のことば

福岡電業協会は令和2年8月1日に創立50周年を迎え、記念誌の発行とともに祝賀会を開催することができました。

コロナ禍の一年でしたが、何とか会報を発行し、表紙を飾るに至りました。

『夢と生きがいのある 電気設備業界』を求めて

一般社団法人 福岡電業協会

会長 西村 松次



新年、あけましておめでとうございます。

去年は、「新型コロナウイルス」の影響により、東京オリンピックも延期となり、電設業界においても、全国会員大会やJECA FAIR電設工業展の開催中止や各種講習会等の中止や規模縮小をせざるを得ない一年でした。

今年も引続き影響は多大であると思われませんが、最大限の安全配慮を行い、活動しなければならないと考えています。

電設業界をはじめ、建設業界の最大のテーマは今年も「働き方改革」であり「人材の確保・育成」であります。

働きやすく魅力ある職場にするためには「働き方改革」を強力に進める必要があります。建設業界全体として取組みをやらなければなりません。その基本である完全週休二日制の浸透はなかなか進んでいない状況であります。工事現場では前工程の遅れによる「しわ寄せ」が工期後半の我々電気工事に対し発生しているのも現実であります。

昨年7月に中央建設業審査会において建設工事における適正工期の在り方を初めて具体化した「工期に関する基準」が作成され、適正な工期の設定や「しわ寄せ」防止のために必要な事項、「しわ寄せ」が生じた場合の対応等、業界の業務環境を改善するのに効果的な内容が盛り込まれており、魅力ある電設業界の実現につながることが期待されています。

このことは、建設現場における週休二日の普及、長時間労働の是正や働き方改革を推進する上で、

2024年度から適用される時間外労働の上限規制の対応に向けて、大きな意義があるものです。

「働き方改革」により、技術者・技能者の高齢化や若年入職者の減少に伴う担い手不足といった問題を解決し、そして「人材の確保・育成」にも結び付くものであります。

今年も上部団体の日本電設工業協会と歩調を合わせ、電気工事業界の健全な進歩発展と社会公共の福祉増進に寄与してまいるとともに『夢と生きがいのある電気設備業界』を作って行きたいと思います。

昨年8月に福岡電業協会は創立50周年を迎え、祝賀会の開催や50周年誌の発行を致しました。

今年は10月に熊本市において、全国会員大会を開催する計画で準備を進めており、引続き皆様方のご協力、ご支援を重ねて願う次第です。

最後に、皆様のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



祝 辞

年 頭 挨 拶

国土交通省九州地方整備局

局長 村 山 一 弥



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
一般社団法人福岡電業協会の皆様には、平素より
国土交通行政の推進にご支援、ご協力を賜り厚くお
礼を申し上げます。

九州は災害が発生しやすい地形、気象条件を有す
るため、2017年の九州北部豪雨など毎年のように大
規模な災害に見舞われており、昨年は新型コロナウ
イルスの感染症拡大により世界規模で問題が発生し
ている中、「令和2年7月豪雨」に襲われました。

この豪雨災害では熊本県南部、九州北部の広い
範囲で記録的な豪雨となり、球磨川流域を始め、各
地で甚大な被害が発生しており、関係の皆様には、
これらの一連の災害対応で多大なご尽力を賜りました。
改めまして、心より御礼申し上げます。また、本年
も被災地の復旧・復興に全力で取り組む所存ですので、
引き続きご協力の程、何卒よろしくお願い致します。

九州の更なる発展のためには、安全・安心の確
保とともに、ストック効果の高いインフラ整備・
活用が重要です。福岡空港は年間約2500万人が利用
し、さらに増加することが予測されていることから、
2024年度には新たな滑走路を供用開始できるよう整
備を推進しています。また、有明海沿岸道路について、
今年度は大川東IC～大野島ICまで、2022年度には
大野島IC～（仮）諸富ICまでの開通を予定しており、
三池港と九州佐賀国際空港までの所要時間が更に短
縮されることとなります。

また、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加
速化対策」として、今後5年間で、政府全体で概ね
15兆円程度（うち国土交通省として概ね9.4兆円程度）
の追加的な事業を重点的・集中的に実施する旨、昨

年12月11日に閣議決定がなされました。

この貴重な予算を活用し、国土強靱化の歩みを引
き続きしっかり加速化・深化させて参ります。

これに向けて、営繕事業では「災害応急対策活動
に必要となる官庁施設の電力の確保等対策」として、
災害応急対策の活動拠点となる官庁施設の自家発電
設備、受変電設備改修等を実施してまいります。

また、官庁施設における総合的な環境対策の推進と、
公共建築分野における先導的役割を果たすため、「低
炭素社会」「自然共生社会」「循環型社会」の各分野
において、環境対策の推進に取り組んでいきます。

少子高齢社会における「地域の守り手」としての
役割を担う建設業にとって、「生産性向上」と「働
き方改革」の推進も大きな課題です。生産性向上に
ついては、3次元データやBIM/CIMの活用をはじめ
とするi-Construction全般の取り組み、また「週休
二日モデル工事」の拡大や、各県で統一した「工事
現場の一斉閉所日」の設定等により、働き方改革を
推進しています。

2019年6月に成立した「新・担い手3法」の理念を
踏まえ、建設産業が「新3K（給与が良い、休日が
取れる、希望が持てる）」の業界となるよう、地方
自治体とも連携して引き続き取り組みを進めてまい
ります。

今後も電気工事業を含む建設産業の皆様とともに、
九州より活力ある、安全で安心な地域とするべく社
会資本整備、国土強靱化に取り組んで参ります。

本年が皆様にとりまして、実り多い年になります
ことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 所 感

福岡県知事

小 川 洋



新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、日頃から、電気設備工事の安全施工に向け、技術力や保安意識の向上にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症、災害、それと鳥インフルエンザへの対応に全力を挙げる一年でした。

新型コロナについては、県民、事業者の皆さま、医療従事者をはじめ社会を支えていただいている多くの皆さまのご理解、ご協力、そしてご尽力に改めて感謝申し上げます。

本県の景気は、依然として厳しい状況にあります。持ち直しの動きが見られます。

新型コロナ対策、4年連続となった災害からの復旧・復興、これらを着実に進めるとともに、一日も早く地域の経済を立て直していきます。

こうした厳しい時こそ、将来の発展の種を撒く、芽を育てることが大事です。このため、次の三つに取り組んでいきます。

第一に、「新たな成長産業の創出」です。

宇宙に挑戦する県内企業が増え、ブロックチェーン企業やバイオベンチャーの集積も進んでいます。こうした、福岡発の新しいビジネスの創出に、力を入れていきます。

第二は、「人と企業の新たな受け皿づくり」です。

頻発する自然災害とコロナ禍による人々の地方への移住・定住の意識の高まり、企業の本社、研究開発機能の分散化の動きを捉え、福岡県がその受け皿として選ばれるよう、魅力を高めることが重要です。

そのため、住み慣れたところで「働く」、長く元気に「暮らす」、お子さんを安心して産み「育てる」ことができる「地域社会づくり」を一層進めていきます。これは、これまで進めてきた地方創生の基本

と変わるものではありません。

国際的な受け皿として、「TEAM FUKUOKA」、産学官挙げて国際金融機能の誘致を目指していきます。

また、新型コロナなど人獣共通感染症に対応するため、ワンヘルスの理念に立った取り組みを進め、その拠点の早期整備を目指します。

第三は、「将来の発展基盤の充実と安全・安心で災害に強い福岡県の実現」です。

県内各基幹道路の整備、下関北九州道路の早期実現などとともに、防災減災対策、国土強靱化に取り組めます。

そして、地球温暖化への対応。洋上風力発電など再生可能エネルギーの導入、省エネ対策、水素エネルギーの利活用を進め、脱炭素社会の実現を目指します。

いよいよ、東京オリンピック・パラリンピックの開催です。5月に県内で行われる聖火リレーで、県全体を盛り上げていきます。また、10月に北九州市で開催される体操、新体操の世界選手権大会を成功させ、本県の魅力を国内外に発信してまいります。

コロナとの闘いは、これからも続きます。社会全体で感染防止を図りながら、丑年らしく、一步一步着実に社会経済活動のレベルを上げてまいります。

ポストコロナを見据え、県内各地の魅力を高め、福岡県を元気にしていきます。そして、日本海側に位置し、アジアを向いた一大拠点として発展をさせ、九州、日本を引っ張っていきます。

貴協会と電気設備工事に携わる皆さまにおかれましては、時代が求める新しい知識と技術の習得に努められ、地域の皆さまへの安全・安心を引き続き提供していただきますようお願いいたします。

新年が皆さまにとりまして、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

祝 辞

年 頭 挨拶

福岡市長

高 島 宗一郎



新年、あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様におかれましては、幸多き新春をお迎えのことと、お慶びを申し上げます。

去年は新型コロナウイルスの影響により、世界中が大きな影響を受けた一年でした。医療従事者のみなさまをはじめ、社会を支えていただいた全ての方へ改めて感謝を申し上げます。今しばらくこの状況は続きそうですので、市民のみなさまには引き続き感染拡大防止へのご協力をお願いします。

一方で、新しい年の始まりは、「とりもどせ元気!」をスローガンに、是非明るく、前向きな気持ちで迎えていただければと思っています。福岡市でも、ピンチはチャンスと発想を切り替え、今だからこそできることを前向きに進めていきたいと考えています。まずは、まちづくりの変化です。福岡市では、天神ビッグバン、博多コネクティッドなど、都心部ビルの建替えプロジェクトが進行中です。まちが一気に生まれ変わるこのタイミングをチャンスと捉え、単なるハード整備にとどまらない、世界に先駆けた感染症対応シティを目指すことにしました。「換気」「非接触」「身体的距離の確保」「通信環境の充実」などの取組みを誘導し、高付加価値なビジネスの誘致につながる国際競争力を持った、安全安心で魅力的なまちづくりを進めます。

続いて、生き方、働き方の変化です。福岡市は、様々な都市機能がコンパクトなエリアに集中していますが、一方で、身近なところに豊かな自然があるのも特徴です。新型コロナウイルスの影響で、働き方や

プライベートの過ごし方など、生き方そのものが見直される昨今、誰もが生き生きと働き、豊かな自然を満喫できるまちとして、改めて福岡市の良さが注目されています。都市機能を充実させていくとともに、自然を守り、自然を楽しむことができるよう様々な取組みを進めてまいります。

また、社会のニーズが変化している今は、新たなテクノロジーやビジネスを生み出す大きなチャンスであり、こうしたときこそ、スタートアップ企業が大きな役割を果たすと考えています。国家戦略特区という推進エンジンを活用しながら、日本最大級の創業支援施設「Fukuoka Growth Next」を中心に、新しい価値の創造に挑戦する企業を支援していきます。

今は色々なものごとを変えやすい、いわば社会が柔軟な時期であり、この機を逃さず様々なチャレンジを行うことが重要です。基礎自治体の現場と県の権限の両方を持ち、さらに国家戦略特区で国の規制緩和も可能な福岡市にこそ、様々なチャレンジを行うチャンスがあります。福岡市が社会課題を解決するロールモデルとなり、日本を最速で変えていきたいと考えています。

「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指し、福岡市を次のステージへと飛躍させるチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を、オール福岡で進めるべく、引き続き全力を注いでいきます。最後に、みなさまの今年一年のご健勝とご活躍を心から祈念し、新年のあいさつとさせていただきます。

「記念祝賀会盛大に祝う！」



昭和45年8月に九州電業協会として発足し、昭和55年8月に福岡県知事より「社団法人九州電業協会」として認可を受け法人格を取得、昭和60年4月に「社団法人福岡電業協会」と名を変え、平成24年5月に現在の「一般社団法人福岡電業協会」となった当協会も、令和2年8月1日をもって50周年を迎えることとなりました。

そこで一般社団法人福岡電業協会50周年を盛大に

祝おうということで記念祝賀会を計画しました。

企画運営委員が中心になり準備を進めているところ、新型コロナウイルス第二波の猛威により開催がかなり危ぶまれましたが、会場でありますソラリア西鉄ホテルの惜しみない協力と関係者の熱意により、徹底した感染対策を取った上で、予定通り令和2年7月31日に開催することができました。

福電協創立50周年記念行事

当日来場者は受付前に検温及び手指消毒、受付担当もマスクにゴム手袋という物々しい感染防止対策となりました。

出席者はソーシャルディスタンスを考慮した席に座り、登壇者は演台に設置されたアクリル板越しの挨拶です。

式次第として司会者による開会の辞につづき、主催者代表として西村会長が挨拶を行いました。

次に来賓を代表して日本電設工業協会後藤会長より祝辞を賜り、50周年の福電協の歩みをスライドショーにて紹介されました。

その後島田副会長の発声により一同乾杯し、歓談

と会食が始まりました。

途中伝統芸能博多にわか余興を楽しみ、いよいよ吉田副会長の音頭にて博多手一本を納め、中締めとなりました。

当日はコロナ禍にありながら束の間の華やかかつ和やかな懇親の時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。

新しい生活様式での開催で、ご苦勞も多かったと思いますが、関わっていただいたすべてのみなさまに感謝を申し上げます。

ありがとうございました。



感染対策を取っての受付



手指消毒を念入りに



西村会長による主催者挨拶



来賓を代表して電設協後藤会長による祝辞



余興の博多にわか



みなさんにこやかな表情です